

みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

本年もよろしくお願ひ申し上げます
2013年元旦
みらいん編集部

第14号



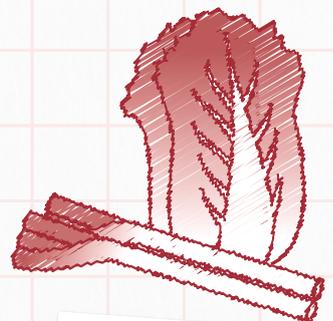
◀「しゃべんのも、写真も
苦手なんだ。俺のオアシ
スで撮っべし」と、巨大
な白菜や立派なネギが育
つ、自宅敷地跡の畑では
にかむ靖雄さん

今月の
ひと

皆さんへ安心感を与える存在 港町内会副会長

今日を大事に“ケ・セラ・セラ”

近所の子もたちからも「やっさん」の愛称で呼ばれていた片桐靖雄さん。
自宅があった港町内会では、役員4人が震災で亡くなりました。
昨年3月半ばには、震災対応のために役員選出が急務となり、町内会臨時総会を実施。
副会長への急な指名に戸惑いもりましたが、会長らと協力して皆さんを元気づけています。
支援物資の運搬や、皆さんが育てた野菜販売の時などは、
「やっさん、軽トラ貸してけろー」と、流失を免れた軽トラックと共に活躍しています。
母と妻の3人で高砂の借り上げ民間賃貸住宅に暮らす靖雄さんは、
港町内会の皆さんが多く入居する高砂1丁目公園仮設住宅の談話室を頻りに訪ねたり、
自宅敷地の畑で採れた野菜を届けるなど住民の皆さんと細やかに触れ合ってきました。
そんな中で独居高齢者の相談には、今後も継続的に行政が個別対応することを願っています。
将来は、「仙台港背後地住宅地区」の宅地を移転先として希望している靖雄さん。
「もし、抽選に当たって新しい土地に移転できてからも、元の地域の人のことは
気になるし、気にしていきたい。“来んな”と言われるかもしれないけどね（笑）」
「今日を大切に、深く考えすぎないことが大事」ケ・セラ・セラで生きる、やっさんです。



2013

1月

岡田の若きリーダーたち

これからの岡田の地域づくりを牽引する若一手世代の方々に地域の展望を伺いました

「えんの会」代表の
二瓶透さんに訊く

「がんばっぺ岡田の会」代表の
伊藤正敏さんに訊く

Q 発足の経緯は？

A 南蒲生復興部の会合等で、若手が意見を言いたくてもなかなか難しく、出席することに対して腰が重いという現実があった。そこをなんとかしようと、町内の若手10名ちょっとで昨年9月に結成しました。新しい住民とも知り合えたり、利点は多いですね。

Q 活動内容は？

A 未来を見据えたまちづくり活動です。まずは安全な暮らしの基盤整備と居久根の再興を軸とした緑溢れるまちづくりをしていきたい。皆の足で歩いて防災防犯マップを作成するとか、出来ることから行動に移していきます。ゆくゆくは地場の産業づくりや外部との交流も考えたい。

会の位置づけは、南蒲生復興部の下部組織と捉えて頂ければ。先輩方の意見を取り入れながら、こちらからも良いと思うことは提案していきたい。

えんの会

南蒲生の
地域復興に
向けた若い世代の集まり。安全で緑に溢れた、新しい田舎づくりを目指しています。名称は「人の縁、縁の下の力持ち、宴」という意味から。

Q 活動していく上での課題は？

A まだまだ住民の意思がまとまっていない面があるから、地域が一丸となって復興に取り組めるようにしていきたいです。

Q 理想とする南蒲生の将来像は？

A カブトムシやメダカが普通にいるような“きれいな田舎”にしていくことが理想。かつ、離れてしまった方が戻って来なくなる、よその人からもあそこに行きたい、住んでみたいと言われる土地にしたい。居久根は手がかかるが、関わった人たちが皆で手入れしていくように考えれば負担軽減になる。どんな樹木がふさわしいのか勉強会をして、自分から率先してやっていきたい。将来の子孫たちにも受け入れてもらえるようなやり方だね。

Q 読者の皆さんへひと言

A 道路側の垣根は、出来ればブロック塀にせず生垣をつくって緑を増やしていきたい。四季を通じて過ごしやすい南蒲生は歴史があり、父親同士のまとまりがあった。なんとかまた盛り上げていきましょう。復興が一番の恩返しですからね。

Q 発足の経緯は？

A 震災直後に自宅近辺の泥かきをしていたんですが、そこで熱海努さんを中心とした町内の方々と知り合ったことが、クリーン作戦と銘打った町内清掃に発展しました。その際に「震災によって傷付いた方々や地域に対して何か出来れば」という思いを持った人たちから、会を立ち上げようという声が上がったのがきっかけです。

Q 活動内容は？

A 岡田地区住民の心の復興を目指した、楽しい催しの運営をしています。住むところがバラバラになってしまった方々が一堂に会して話が出来る場を提供していきたいですね。これまでにやってきた「岡田の風」、「岡田の灯」などの音楽祭や夏祭りがそうです。皆で作り上げていく住民参加型の催しが中心ですね。

Q 活動していく上での課題は？

A 地域の中にもっと溶け込んでいきたい。各町内会との連携をもっと取っていければ良いと思います。やるからには、より大勢に参加して頂きたいですから、催しの周知方法も考えなければいけません。

Q 理想とする岡田の将来像は？

A 優しく楽しいまちづくりをしたい。地域の宝である子どもたちにとって、「楽しい思い出の詰まった地元」という風になって欲しい。大人になって地域を離れてしまっても「また帰ってきたいな」というまちにしたい。例えば実家を出てよそへ住んでも、岡田に帰れば面白い夏祭りをやっているから帰省したい、という風になればうれしいです。
会については、せっかく志のある人たちが集まったので、青年団に移行できればなお良いと思っています。まあ、現状で青年団の動きに近いものもありますけどね。

Q 読者の皆さんへひと言

A 来たる3月17日(日)に音楽祭「岡田の風 Vol.2」を岡田小学校で実施します。併せて「桜3.11 プロジェクト」による桜の植樹もする予定です。フィナーレは岡田のどこからでも見ることができる規模の花火の打ち上げを予定しています。奮ってお集まりください。

がんばっぺ岡田の会

岡田地区住民の心の復興を目指し、夏祭りや音楽祭といった地域活性化を図る住民参加型イベントをおこなっています。

人物紹介 伊藤 正敏 さん

高校生の時から港南地区に居住。会では最年少ながら代表として活躍。活動を経て生まれた新たな地域との関わりに喜びを感じています。



(上) 大人も子どもも楽しんだ昨年の夏祭り
(下) 昨年12月には高砂社協祭りの手伝いで、豚汁をつくって振る舞いました

人物紹介 二瓶 透 さん

鍋沼の二瓶家18代目。穏やかな語り口で、常に地域の将来を考えて活動しています。がんばっぺ岡田の会にも所属。



(上) 活発な意見が交わされる会合
(下) 近く、住民に開放して集いの場にしたいという二瓶代表宅にある広場

ともに地域づくりに関わっている方々から



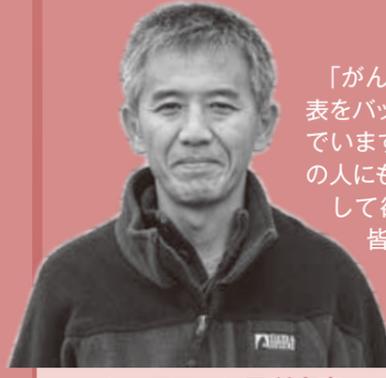
えんの会 阿部忠彦さん

まずは行動、という意識と柔軟性が「えんの会」にはある。個人的には、例えばボクシングジムをつくるか新しいことをやりたい。町内でロードワークをする子どもを、地域で応援して育てるとかさ。地域も盛り上がり、相乗効果があって面白いと思う。俺自身は、子どもたちに人との付き合いを教える威勢の良い親父でいたい。



えんの会 二瓶明美さん

以前は町内の人ともそんなに親しくはなかったけど、外部とのつなぎ役をするようになったのは、避難所の共同生活を乗り越えて社交性が出てきたからかな。今後は、若い人たちの力を借りながら地域の上の世代と下の世代をつないでいきたい。あとは、誰もが気軽に集える場所が町内に欲しいよね。



がんばっぺ岡田の会 足利克寛さん

「がんばっぺ」は女性陣がうまく代表をバックアップして良い具合に進んでいます。催しには上岡田や下岡田の人にもお客さんとして積極的に参加して欲しい。同じ学区民ですから皆で楽しくしたいね。大人には、たくさん子どもに接して欲しい。子どもには近所の大人とたくさん会話をしたい。それが、将来につながるんだと思う。



がんばっぺ岡田の会 高橋由加里さん

外からも人を呼び込める地域にしていなくてはと思います。その為には町内会や地区を超えて皆で岡田全体を考え、話の出来る場をつくっていききたいですね。個人としては、岡田に小さな保育室をつくりたい気持ちがあります。子どもが喜ぶことや子育てで支援をしていきたいなあって。

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にレター形式でご登場いただきます。



◀長女の子どもたち、藍さん、謙ちゃんと一緒に「ママばば」と「タケじい」

第9回

小野聖子さんご夫妻(中野・蒲生)

いま一番重たいのは、アパートのローン

蒲生では「西屋」と屋号で呼ばれていた小野聖子さん・長廣さん夫妻。あの日は、2人そろって原町に暮らす長女の子どもの面倒をみた帰りに、遅い昼食をとうとう立ち寄った福田町で強い揺れに襲われました。急いで蒲生の自宅へ戻り、「かなり地盤を高くして頑丈に建て直した自宅の2階に上がれば大丈夫だろう」と、長廣さんは当初、逃げるつもりはありませんでした。しかし、七ヶ浜町出身の聖子さんは、チリ地震津波の経験から即座に「津波」の文字が頭をよぎりました。近所に避難を呼びかけてから、防災グッズをリュックに詰めて、渋る長廣さんと一緒に中野小学校へ行き難を逃れました。

昨年3月半ばからは、知り合いの不動産屋に紹介された清水沼のアパートに暮らしています。全て流失した夫妻には、10年前、自宅敷地に建てたアパートのローンが残りました。「ローンがいま一番の苦しみです。皆さんも悩んでいる」と、聖子さんは言います。

長男家族と6人で暮らすという夢を抱いて

多賀城市の施設で暮らす高齢の両親を定期的に訪問したり、長女の子どもの面倒をみるために原町へ通うなど、慌ただしい毎日を送る聖子さん。一方、長廣さんは以前勤めていた会社の要請を受け、昨年7月から生コン工場では早朝、深夜の勤務が続いているうえ、地元の農業委員として東部は場整備事業の会合に出席しています。そんな多忙な夫妻ですが、昨年は、地元で特に仲の良かった夫婦でつくる「カトレア会」で福島県へ、また、長男家族から無料宿泊券を譲られて岩手県八幡平へ旅行するなど、思わぬご褒美を楽しみました。将来は、移転先として希望する田子西地区で、長男家族と6人で暮らすことを楽しみにしている小野さん夫妻です。

次回は中野地区出身の方にご登場いただく予定です

読者からひとこと

●毎日、蒲生干潟の方まで散歩してます。沢山の鳥を眺めたり船の汽笛を聞いていると落ち着きますね。今日は、ようやく庭の菊が育ったので慰霊塔にお供えにきたの。

ちとせ 千年房子 さん

みらいん編集部 取材ダイアリー 11月 12月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

24日(土) 社殿竣工奉告祭(新浜・吉窪神社)



古くから新浜の氏神様として祀られている吉窪神社。津波被害を受けましたがこのたび、神社庁の計らいで伊勢神宮(三重県伊勢市)が管理するヒノキを提供していただき、本殿が完成。氏子や関係者ら約40名が出席して奉告祭が執り行われました。



29日(木) 昔遊びの会(中野栄小学校体育館)



中野小学校が毎年続けている「昔遊びの会」は、児童たちが、地元の高齢者から昔の遊びを覚えてもらう交流会です。この日は、1・2年生19名が6班に分かれて、9名のおばあちゃんが教えてくれる「あやとり」や「ビー玉」など6種類の遊びを順繰りに楽しんだ後、お礼に「ジングルベル」を児童らが合唱しプレゼントしました。

12月2日(日) 仮設集会所が出来ました(岡田・新浜)



仮設の集会所がこのたび、旧公会堂跡地に出来ました。本集会所が出来たまでの数年間ですが活用されることでしょう。この日は、仙台市の姉妹都市であるアメリカ・カリフォルニア州リバーサイド市の方々から届いた鮮やかなパッチワークが、新浜町内会へ授与されました。

12月8日(土) イルミネーション点灯式(鶴巻1丁目東公園仮設住宅)



蒲生出身で利府町在住の武田繁三郎さん。「皆の希望の光になれば」と、10月末から週4回程通い、イルミネーションを公園内仮設集会所の壁面へ取り付ける作業に励んできました。大人も子どもも寄ってくるイルミネーション。点灯時には「夢の国みてえだな…」と歓声があがりました。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

新浜復興の会

新浜の新たなまちづくりを検討する現地再建グループと、上岡田・久保野地区への集団移転を目指す移転再建グループが、それぞれの復興を果たすべく活動しています。



▶新浜に出来たばかりの仮設集会所が会場となりました

12月2日(日) 第4回町内全体報告会

- 内容 ●行政に要望する新浜まちづくり計画について ●久保野地区集団移転計画の状況について

当日の様子 現地再建グループから、避難施設の配置は高齢者などに配慮していくこと、今年度中に町内の塩釜互理線西側に防災無線の設置をしていく予定であると報告がありました。移転再建グループからは、開発行為の許可が下りたことで開発業者を選定していく段階に入ったことが伝えられました。また、参加住民から出された「かさ上げ道路は開口部が無いと聞いたが、台風や大雨の時の排水先はどうなるか?」という質問に対し、市側からは「まだ結論が出ておらず、時間が欲しい」との返事がなされました。

復興の会の問い合わせ先:代表 遠藤芳広 090-2020-4002
移転再建グループ問い合わせ先:
リーダー 瀬戸健介 090-1066-5646

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、移転・現地再建グループがそれぞれ話し合いを進めています。



▶「とにかく声を発して強く要望していかないとけない」と意見はまとまりました

12月12日(水) 全体会議

- 内容 ●「南蒲生復興まちづくり基本計画」の骨子確認

当日の様子 行政に要望・提出する「まちづくり基本計画」の中で復興部として特に取り組みたい、3つの重点プロジェクトの内容について協議しました。優先事項である「安全・安心な暮らしが出来る環境づくり」については、昨年12月の地震で避難道路が混雑したことを受けて、海側から県道塩釜互理線を立体交差して円滑に西側へ抜ける避難道路の早期整備が求められました。また、町内に設置予定の避難タワーに関して、食糧の備蓄が出来て冬季の寒さを凌ぐことが出来る避難ビルを求める声が上がりました。

問い合わせ先:代表 芳賀正 090-4042-9464
会合は随時開催
住民説明報告会:毎月最終日曜日 岡田会館

中野小学校区復興対策委員会

12月2日(日)第34回中野小学校区復興対策委員会

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

- 報告事項 (4町内会から)
●西原:12月2日「意見交換会」を実施
・1月27日(日)10:00~町内会総会を実施予定
●港:1月20日(日)11:00~町内会総会を実施予定
●蒲生:1月20日(日)10:00~町内会総会を実施予定(会場はすべて高砂市民センター)

- (蒲生駐在所から)
●蒲生干潟の中でタイヤが燃やされ消防車が出動したケースが発生。港湾事務所と協議して見回りの強化を検討予定

- (仙台市教育局から)
●中野小学校の校舎解体案について
●南蒲生浄化センター敷地内に一時的に保管している富沢小学校校庭の除染を行った土砂について

- (復興事業局から)
●水族館誘致の報道について
●荒井公共区画整理地区の募集状況について
●蒲生北部地区における土地区画整理事業に関する説明会と都市計画決定手続きスケジュールについて

当日の様子 10月7日の同委員会に教育局が出席し協議された「中野小学校の今後」について、進捗状況確認のため再度教育局が出席しましたが、平行線のまま結論には至らず、今後に持ち越されました。復興事業局からは、蒲生北部地区における土地区画整理事業に関する説明会と都市計画決定手続きスケジュールについて、紙資料をもとに質疑応答がなされました。

問い合わせ先:委員長 高橋實 022-258-3068
定例会議:毎月第1、第3日曜日16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

被災地レポート

取材地

仙台ゴトウ解体 (岡田地区)

被災車両を回収・解体し
地域の復旧に貢献

「風が強い日だと、波の音が作業場にも届くんです」。海岸から七百メートルに位置する自動車リサイクル業の仙台ゴトウ解体。解体歴十二年の従業員中嶋一徳さんは、津波で一変した光景を見て語ります。

同社は車両の部品を全てリサイクルする「全部再資源化事業者」です。従業員が手作業で車内の配線コードを外し、プレス機で小型冷蔵庫ほどの大きさにつぶしてからリサイクル業者に回します。エンジンなど車体以外の部品は、世界各国へと輸出されています。一カ月に約三百台が運び込まれ、約一畝の敷地一面に積み



自動車解体工場の敷地内に車両が積み上げられていました



津波で泥だらけになったままの解体車両

上げられた車両が、再資源化される日待っています。

東日本大震災直後は、同社の敷地に信じられない光景が広がっていました。三・一一の翌朝、中嶋さんが会社へ戻ると、昨日までそこにあった事務所建物、作業用の大型車両、敷地一面に積み残されていたのが配線コードの山でした。銅を取り出すため、従業員が一台ずつ手作業で取り外した「財産」です。「諦めるなよ」。そう言われた気がしました。

「廃業は全く考えなかった」と社長の後藤正信さんは振り返ります。「ここで会社を畳んだら、従業員とその家族が路頭に迷う。復旧・復興に向けて、私たちが必要とされるかもしれない」と思ったそうです。震災四日後には作業場のがれき撤去に着手、一週間後にはトラック二台を借りて被災車両の回収を始めました。

毎日、遠い時は石巻市まで車両を回収しに向かいました。二カ月後には津波で全て流された敷地が、車両でいっぱいになりました。「お客様への助けを求める声に応えたい」と思いながら、無我夢中で働き続けました」と中嶋さん。震災から約一年八カ月で、解体した車両は約三千三百台。敷地から「泥だらけの車」が姿を消し始めました。津波被災車両の処理は終わりを迎えようとしています。

復興を進めるために
岡田で働き続けることを決意

震災前には防風林が茂り、田んぼが季節ごとに様々な姿を見せていた



自動車解体歴12年の中嶋一徳さん

同社周辺。津波で林は九割近くが流され、田んぼにも水は張られず、雑草が生い茂っています。近所には、被災地を離れ、新天地に居を構える選択をした人もいます。しかし、中嶋さんがこの場所を離れる予定はありません。「ここで働く人がいないと、復興は進みません」。彼の言葉と背中、被災地で働く誇り高い職人の覚悟を感じます。

震災後に起きた環境の変化は、悪いことばかりではありません。「夜、星がとともきれいに見えるんです。震災前には、星の美しさなんて全然気づかなかったなあ」。空を見上げて、中嶋さんは笑いました。

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

多重債務でお悩みの方はいませんか？

東北財務局では、専門相談員を配置し、自らの収入で返済できないほどの借金を抱え、お悩みの方からの相談に応じています。相談者の抱える借金の状況丁寧にお聞きするとともに、必要に応じて弁護士・司法書士などの専門家に引継ぎを行います。相談無料、秘密厳守。

対象 多重債務でお悩みの方(自営業者も含む)

時 月～金曜日(祝日、年末年始除く)9:00～17:45

問 東北財務局 金融監督第三課

青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階

022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)

健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)

対象 どなたでも参加できます

時・所 各仮設住宅集会所

▼高砂1丁目公園

1月25日(金)10:00～

2月6日(水)10:00～

▼鶴巻1丁目東公園

2月5日(火)13:00～

▼福田町南1丁目公園

1月21日(月)10:00～

2月4日(月)10:00～

▼岡田西町公園

1月24日(木)10:00～

▼港南西公園

1月11日(金)10:00～

2月1日(金)10:00～

▼仙台港背後地6号公園

1月16日(水)10:00～

▼扇町1丁目公園

1月18日(金)13:30～

▼扇町4丁目公園

2月13日(水)10:00～

問 022-291-2111(内線6782、6784)宮城野区家庭健康課健康増進係

赤い羽根 地域ボランティア活動支援事業 第6次応募の受付を開始します

宮城県共同募金会では赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業として、東日本大震災被災地の地元住民グループなどによる被災者支援を目的としたボランティア活動を支援する助成金の第6次応募を受け付けます。

対象 宮城県で地元住民のグループなどによる、助け合い活動を行う住民団体やボランティアグループ、NPO法人など、県民5名以上で構成される非営利団体

※平成25年3月までに完了する事業に対して助成します。

対象事業例 ①引越し・片付け、見守り訪問などの生活支援活動②季節の行事、住民交流などのサロン活動③子どもの学習支援や一時預かりなどの子ども支援 など

記分金額 1団体1回につき10万円まで

応募受付期間 第6次応募：2月1日(金)～2月28日(木)必着。助成決定平成25年3月下旬

応募方法 各団体から市町村共同募金委員会を通じ申請します。仙台市内の団体は下記にお問い合わせください

問 022-223-2026 仙台市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係

住まいに関する悩みをサポートします

NPO法人「住まいの相談」では、震災で自宅が被害に遭われた方を対象に、住まいに関する相談を受け付けています。住まいの専門家が、災害復興融資制度の説明や復興住宅建築のアドバイス、土地の購入や売却などの相談に無料で応じます。

対象 東日本大震災で自宅に被害を受けた方

問 NPO法人・住まいの相談 泉区桂1-11-7

TEL022-343-6558(月～金曜9:00～17:00)

FAX022-371-8029

http://sumaino-soudan.org/

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
いくねおちゃっこの会	六郷地区にお住まいの方、元六郷地区の方	1月11日(金)	14:00～16:30	六郷市民センター	韓国伝統舞踊鑑賞、茶話会	要(電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
懐かしいレコードを聴きながら音楽を楽しみましょう	泉区のみなし仮設にお住まいの方	1月18日(金)	10:00～12:00	泉区中央市民センター	懐かしいレコードを聴きながら音楽を楽しんで、交流の輪を広げましょう	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
お茶っこ交流会	宮城野区のみなし仮設にお住まいの方	1月19日(土)	10:00～12:00	仙台市中央市民センター(仙台駅東口)	秋保民話の会の皆さんによる、地域の民話を聴くサロン	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
連者DEサロン	中田周辺のみなし仮設にお住まいの方	1月22日(火)	10:00～12:00	中田市民センター	折り紙でハートボックス等を作成します	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
2013年カレンダーづくり	福沢市民センター周辺にお住まいの方などなたでも	1月22日(火)	13:00～15:00	福沢市民センター	皆で手づくりの卓上カレンダーを作成します	不要	支えあいセンター あおば 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

「年だから」

新年を迎え誰もが平等に、一歳年を重ねます。ところで、皆さんは年齢を気にする方ですか？ 私はあまり年齢を気にしない方ですが、これまで普通にできたことが、出来なくなったり、新しい事にチャレンジしようと思ったのに、無理かなと考え諦めるなど、日常の様々な場面で「年齢を意識するようになり、最近は一歳だから」が口癖のようになりました。また、時には「年だから」を言い訳として便利に使ったことも覚えました。

ただ、私は「年だから」と言いつつも、自分以外の人が考える概念や枠の「年齢」のなかで、生き方や行動を決めたくないと考えています。人生の折り返し地点を過ぎ、ここからだもちよつとした不具合や痛みを抱えています。上手にケアしながら、年だからこそ自分らしく自分が望む生き方や行動をしたいと考えています。一度しかない限りある人生です。先日、還暦を迎えた夏木マリさんのメッセージを見つけました。

「気持ちよく生きましよう。年齢なんて記号を気にしないで、前向きに生きましよう」とありました。素敵な一年になりますように。

(財)仙台市健康福祉事業団 健康増進センター
健康増進課課長 入江徳子

入江徳子 (いりえ のりこ)

健康運動指導士として震災後、避難所や仮設住宅集会所で指導を行っている健康増進センターのリーダー的存在

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1		2		3		4
5	6	A		7		
8			9			
	10					11
12			13			
		14				15
17						18

タテのカギ

- ①青葉山公園にある〇〇〇沼は、日本のフィギュアスケート発祥の地といわれます
- ②布地の全体が一色で、模様のないこと
- ③国分町中心部にある、〇〇〇小路には、ひっそりとお社が
- ④仙台市民におなじみの泉ヶ岳スキー場。土曜、休日には、〇〇〇〇スキーで夜のゲレンデを堪能できます
- ⑥1月13、20日、八木山動物公園では、焚き火や〇〇〇〇〇に遭遇したサルたちがどう反応するかを観察できるイベントが
- ⑨学ぶことの基本、〇〇〇〇そろばん
- ⑪経験を積んで、悪がしいこと
- ⑫仙台市役所前の市民〇〇〇〇に行って、特設リンクでスケートを
- ⑭アメリカ生まれの動画共有サービス、〇〇チューブ
- ⑯最上がピンなら、最低は？

ヨコのカギ

- ②1月24日に石巻市雄勝町で行なわれる祭り「おめつきは」、県の〇〇〇民俗文化財
- ⑤感謝の言葉
- ⑦かつてのレコード大賞歌手、フランク〇〇〇は現在の大崎市出身
- ⑧古事記と日本書紀のこと
- ⑨能力を最大限に発揮しようとするのは、腕に〇〇をかける
- ⑩12月のフィギュアスケートのGPファイナルで、2位になった羽生選手は、仙台市〇〇〇〇区出身
- ⑪自動車のオートマチック、Sはセカンド、Lは？
- ⑫糸よりは太くて、綱よりは細い
- ⑬ことわざ。〇〇〇は寝て待て
- ⑭2月2～3日、加美町で宮城県〇〇合戦大会が開かれます
- ⑮冬の味覚を堪能。2月2～3日、松島〇〇祭りが開催される予定
- ⑰太平洋が一望できる、仙台市のスプリング〇〇〇〇泉高原スキー場
- ⑱どんと祭といえば、おなじみの裸〇〇〇。大崎八幡宮のは特に有名

前回のこたえ

A ハ B ツ C ユ D キ

でした。

1	ハ	2	ゼ	3	マ	イ	ナ	ス	
5	ツ	ウ	6	シ	ン		メ		
7	ウ	ス	メ		8	マ	タ	9	ギ
	リ		10	ナ	ナ	11	ツ		ム
		11	デ	ワ		12	カ	13	メ
14	シ	ユ		15	イ	ワ	16	マ	
17	オ	オ	サ	キ		18	キ	ロ	

編集後記

神社・仏閣・教会詣でが趣味の私。信心深い方からは「節操がない」と叱られそうですが、静謐な空間が好きなのです。数年前、ある神社のご神木に突然、巳様が表れた時は驚きました。(芳賀)

皆さん、七草粥は食べましたか？ 年末年始に負荷をかけた胃や腸を休めて、この冬を乗り切りましょう。皆さんにとって前進の1年となりますように願っております。(おおが)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp